

## 学校経営のポイント

### “栄冠と伝統”は一日にして成らず

若井 彌一

新年を迎えることができることを、読者の皆さまとともに喜びたい。そして、本年もよろしくこの「教職研修資料」とおつきあいいただくようお願いしたい。

#### 箱根駅伝が惹きつけるもの

さて、駅伝に興味ある人々にとって新年早々の楽しみは、全日本実業団対抗駅伝大会と東京箱根間往復駅伝競争（通称「箱根駅伝」）である。

今年が第 83 回の箱根駅伝は、順天堂大学の往路・復路総合優勝であった。6 年ぶり 11 度目の優勝校・順天堂大学については、詳しく説明するまでもなからう。6 年ぶりとはいえ、11 度目の優勝である。

最近の 10 年間でみると、駒澤大学 5 回、順天堂大学 3 回、神奈川大学 2 回の優勝であるが、全 83 大会を通じての実績は、中央大学 14 回、日本大学・早稲田大学 12 回、順天堂大学 11 回、日本体育大学 9 回、明治大学 7 回などが上位優勝回数校である。

箱根駅伝と聞けば、優勝回数は少ないものの、大東文化大学（昭和 50 年・51 年の第 51 回・第 52 回大会連続優勝、平成 2 年・3 年の第 66 回・第 67 回大会連続優勝）、山梨学院大学（平成 4 年・6 年・7 年の第 68 回・第 70 回・第 71 回大会優勝）などの名前を懐かしく、あるいは鮮烈な印象を伴って想起する人々も少なくないと思われる。

83 回を数える箱根駅伝出場校の栄枯盛衰はじつにさまざまであり、たとえば前年第 82 回大会の優勝校・亜細亜大学は、今回第 10 位で終わっている。亜細亜大学だけではない。過去 10 年間では最多の優勝回数を誇る駒澤大学も、今回は第 7 位に甘んじている（以下、カッコ内は今回順位）。

最多の優勝回数を誇る中央大学（第 8 位）も、こ

こ 10 年では優勝がない。日本大学（第 2 位）、早稲田大学（第 6 位）も同様である。

これだから、おもしろいのである。最近では、箱根駅伝のテレビ中継の視聴率が 25% 前後といわれ、また、天候にもよるが、沿道の駅伝ファンも 100 万人近くまで増加しているという。各チーム 10 人が必死に、全力を尽くして走り、たすきを継ぐ、そのひたむきな姿に国民の多くが惹きつけられているのであろう。

#### “旬な話題”でさりげなく語りかける

スポーツに限らず、芸能を含む広義の「伝統と文化」は、理解と自覚ある人々が、そのすばらしさを自らが実感し、さらなる充実をめざした実践に挑戦することによって感動が多くの人々に伝えられ、継承されていく。

箱根駅伝や夏の全国高等学校野球選手権大会だけでなく、このことは他の物事にも共通している。

各学校でのささやかな実践も、数年間だけの思いつきに終わることなく、後任者によって、それをさらに充実したものにするための創意と努力のエネルギーが投入されてこそ、大きな流れとなり、伝統と呼ばれるだけの重みがあるものとなる。

児童・生徒一人ひとりの取り組みもまた、同様である。俗にいう「三日坊主」では、大きな成果どころか、まとまりのあることすらできない。自覚的な工夫のある継続的努力が、最低限の鍵なのである。

このことを、一度だけの講話や説明で理解させようとは思わず、年間を通してさまざまな機会と場を活用して、“旬な話題”をとりあげ、児童・生徒にさりげなく語りかけることを心がけてみたい。

（わかい・やいち = 上越教育大学教授・附属小学校長併任）

●予約受付中！ ●2月刊 坂田 仰（日本女子大学）【解説】A5判 100頁・定価 1260円 教育開発研究所・刊

## 『新教育基本法 〈全文と解説〉』

上越教育大学附属小学校【著】B5判 215頁・定価 2520円

★好評発売中！ 『関係力～「子どもが生きる学力」への挑戦～』